

日刊 動労千葉

86. 5. 6

No. 2232

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「過員」首切り絶対許さない

革マルを呼びこみ、動労千葉・国労を「過員」に追いこむための「開発センター」提案する

国鉄当局は、広域配転について、第一陣として北海道・九州から三四七人を五月一日付で東京・大阪地区への配転を発令すると発表した。一方、千葉局では、四月十五日、運転関係の「業務開発センター」の設置について」との提案がなされた。これは、配転者を受け入れることによって玉つきのにはじき出された者を過員としてセンターに追いやるためのもので、動労千葉・国労破壊を狙う当局の手先、動労「本部」革マルによって今、まさにやられようとしている。こんな攻撃を断じて許してはならない。

当局提案 「業務開発センター」の設置について

運転関係の技術力・要員の有効活用として幕張電車区業務開発センターを設置・施策を行ってきたが、その施策を拡大充実するため千葉運転区業務開発センターを設置する。

1. 業務開始時期 昭和六一年五月六日
2. 設置箇所 千葉運転区
3. 対象区 千葉運転区 成田運転支区 佐倉機関区 銚子運転区
4. 組織体制等
 - (1) 名称 千葉運転区業務開発センター
所在地 佐倉（佐倉客貨車区跡）
 - (2) 業務開発センターは、センター長、助役 業務開発員をもって構成する。
 - (3) 業務開発員については、元所属区業務とし、佐倉在勤とする。
5. 主な業務内容
 - (1) 要員の有効活用に関する業務
 - (2) その他指示する業務
6. 勤務 原則として日勤とする。

破綻にひんする「広域配転」

—凶暴なまき返し図る当局・革マル—

広域配転について当局は、三四〇〇人を七月末までに第一陣として東京・大阪・千葉等に送りこむとして動労「本部」革マルの率先協力をえてしても一四〇〇人の応募しかなく、目標の半分にも達しなかった、がゆえに急拠対象地域を盛岡など本州七局、四国総局にまで拡大するまで追いつめられた。にもかかわらず、四月二五日段階で二一九九人という惨状であった。

しかし、当局は、第二陣以降含めて一万人を送りこもうとしている。第一陣の失態をなすりかまわぬやり方で巻き返して行くことは明らかである。

動労千葉・国労の破壊策す

動労革マルを断固たたき出せ！
第一陣として発令されるのは、北海道が二八二人、九州が六五人。系統別には運転部門三〇九人、営業部門四人、その他三四人という。運転部門「三〇九人」送りこまれる動労「本部」革マルの数、「三〇八人」、こんな連中にわれわれの職場を、ハンドルを、ハンマーを奪われてなるものか。マル生分子・動労革マルをたたき出せ。

勝浦支部で家族懇談会

苦しい中で助けあえる本物の団結を

勝浦支部は四月二六日、勝浦市・市民会館において、家族懇談会を開催しました。会は、家族会と組合員二八名をはじめ、本部からは布施書記長、桜沢本部長、家族会担当が出席し、十九時に始まり冒頭、鶴岡支部長は「動労千葉つぶしの

参加者は、分割・民営化十万人首切りを許さないために、団結して闘うことの重要性について再認識しました。
懇談会は、質疑討論の後、田中執行委員から「動労千葉は分割・民営化に反対してみんなを残ろうという方針だ。自分だけ残ろうという人が出ると団結が崩れてしまふ。苦しいけれどお互い助け合い、全力で闘おう」との訴えを全員で確認し、二一時、成功裡に終了しました。